

教員名	宮内 貴久 (MIYAUCHI Takahisa)
所属	生活科学部人間生活学科生活文化学講座
学位	博士 (文学) (2003年 筑波大学)
職名	助教授
URL/E-mail	http://www.aesthe.ocha.ac.jp/~hp/miyauchi/ / miyauchi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

家相 / 風水 / 職人

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・宮内貴久 2006 『家相の民俗学』 吉川弘文館
- ・宮内貴久 2005 「家相の民俗と書物」『歴史評論』664号 校倉書房
- ・宮内貴久 2006 「番匠巻物―書き伝えること・呪物・文字意識―」『奥会津の職人巻物』 神奈川県日本常民文化研究所

◆研究内容

今年度は学位論文「家相の受容と展開に関する民俗学的研究」を、吉川弘文館から『家相の民俗学』と題して公刊できたことが最大の成果である。

また、会津を中心とする職人巻物研究も、全国的な展開の視野が開け、史料の読解から呪い歌について大きな展開を見いだすことができた。この点については神奈川県日本常民文化研究所での口頭発表、ならびに論考を発表した。また、国立民族学博物館での共同研究でも一部口頭発表を行い、論文作成中である。

蔵書と出版文化については若尾政希 (一橋大学) 氏が研究代表者である科研に研究協力者として参加した。その成果の一部は『歴史評論』誌上に発表した。

◆教育内容

学部の授業では民俗学を中心とした講義群を行っている。今年度からはパワーポイントを導入した。このためフィールドで撮影した画像、ビデオなどにより視覚的な授業を進めることができた。今後もコンテンツを充実させていきたい。

また、学外での巡検も江戸東京たてもの園、深川、銀座、秋葉原などで実施した。今後も学外でのフィールドワークを行っていきたい。

大学院の授業ではアナル派の著作の輪読を行い史料操作法と史料批判について授業を行った。

◆共同研究例

- ・「奥会津の職人巻物の民俗学的研究」 神奈川大学日本常民文化研究所委託研究(2002～2004)

◆将来の研究計画・研究の展望

日本の家相研究は東アジアの風水研究につながるテーマである。今後は東アジアの風水との比較研究、東アジアの建築文化の研究に進化させていきたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・風水研究
- ・職人研究
- ・街並み保存

◆受験生等へのメッセージ

大学はキャンパスで学ぶだけでなく、図書館や美術館といった施設、さらにはフィールドワークにより広く学ぶところですよ。

私は機会があるごとに学生を連れて色々なところに行っています。昨年度は江戸東京建物園、深川富岡八幡宮の茅の輪行事、月島・銀座、茨城県桜川市真壁町などに行きました。

お茶大に入って色々なところを訪れて学びましょう。